

かわりゆくもの、かわらないもの。



沖縄復帰50年記念
特別展

琉球

SPECIAL EXHIBITION
COMMEMORATING THE 50TH ANNIVERSARY OF
OKINAWA'S REVERSION TO JAPAN

R Y U K Y U



PRESS RELEASE

開催趣旨

令和4年(2022)、沖縄県は復帰50年を迎えます。かつて琉球王国として独自の歴史と文化を有した沖縄は、明治以降の近代化や先の戦争という困難を乗り越え、現在もその歴史、文化を未来につなげる努力を続けています。本展は、アジアにおける琉球王国の成立、および独自の文化の形成と継承の意義について、琉球・沖縄ゆかりの文化財と復興の歩みから紐解く総合的な展覧会です。

東京国立博物館は、明治期の沖縄県からの購入品に、その後の寄贈品を加えた日本有数のコレクションを収蔵しています。平成4年(1992)、復帰20年の折には、特別展「海上の道」を開催するなど、これまで琉球の歴史と文化に関する研究や展示普及活動に努めてまいりました。こうした礎のもと、力強く輝き続ける琉球の歴史と文化を過去最大規模で展覧します。

九州国立博物館は開館以来、「日本文化の成り立ちをアジアとの関わりの中かでとらえる」というコンセプトを掲げてまいりました。平成18年(2006)には、特別展「うるま ちゅら島 琉球」を開催するなど、琉球の文化交流史は博物館活動の重要な位置を占めるものです。この原点に立ち返り、アジア諸国の交流という視点で琉球・沖縄の姿を見つめ直し、その歩みをたどります。

表紙の作品(上から)

きいろじほうおうこうもりたからづくしせいがい は たつなみもんようびんがたあやあわせいしょう
国宝 黄色地鳳凰蝙蝠宝尽青海波立波文様紅型綾袷衣裳
(琉球国王尚家関係資料) 東(九)

第二尚氏時代・18~19世紀 沖縄・那覇市歴史博物館蔵
展示期間: 東 2022年5月17日(火)~5月29日(日)

鮮やかな黄色に胸や肩には鳳凰を、腰から裾にかけては中国の官服に表現される文様を紅型で染めています。鮮やかな赤い襟の振袖仕立ては、若い王族のために儀式などの正装用に仕立てられたのでしょう。

たまんちやーぶいつけたりかんざし
国宝 玉冠(付簪) (琉球国王尚家関係資料) 東(九)

第二尚氏時代・18~19世紀 沖縄・那覇市歴史博物館蔵
展示期間: 東 2022年5月3日(火・祝)~5月15日(日)

色とりどりの玉を多数取りつけ、金の簪をつけた琉球国王の冠。合計288個もの金・銀・水晶・珊瑚・琥珀・瑪瑙・軟玉の7種の飾玉が金銀で留められており、王権の象徴であると同時に、琉球独自の美意識がうかがえます。

展覧会のみどころ

琉球国王、尚家^{しやうけ}400年の貴重な宝物が一堂に

金銀、水晶など色とりどりの玉で飾られた「玉冠」をはじめ、王族が身につけた格調高い衣裳や刀剣、王国の中枢である首里城を華やかに彩った漆器や陶磁器など、国宝の「尚家宝物」が一堂に会します。

100件を超える国・県・市指定文化財が集結

およそ11世紀末頃にはじまる、いわゆる古琉球時代の交易の様子を伝える出土品や歴史資料から、琉球王国の伝統的な技を今日に復活させた模造復元作品に至るまで、琉球・沖縄の文化財を過去最大規模で紹介します。

琉球の美と技を今に伝える、圧巻の模造復元作品

沖縄県では、平成27年度より最新の科学分析や研究情報に基づき、失われた文化遺産の模造復元に取り組んできました。展覧会の締めくくりに、その成果と事業に関わったたくさんの人びとの想いをご覧ください。

沖縄のシンボル^{しゅりじょう} 首里城

首里城は14世紀後半頃に創建され、15世紀初頭には王国支配のための拠点となり、約500年にわたって政治・外交の中心として、さまざまな文物が集積され、独特の文化が花開きました。政治行政の中心であるだけでなく、王国の祭祀儀礼や祈りの場としての聖地でもありました。しかし、長い歴史の中で何度かの焼失と再建を繰り返しています。いつの時代も再建の道のりは決して平坦ではありませんでしたが、多くの人たちの努力によって甦ってきました。首里城は、現在も人びとの想いととも復活への歩みをはじめています。

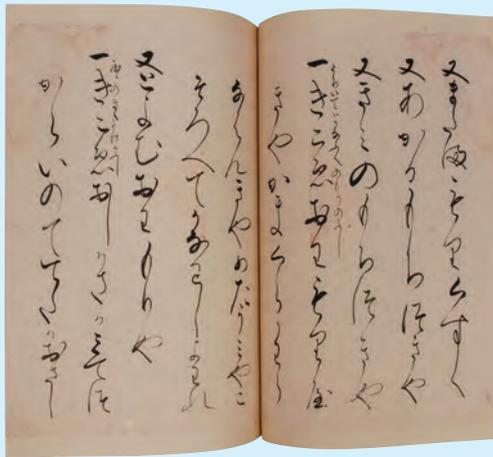


首里城公園 首里城正殿（平成26年（2014）撮影） 画像提供：一般財団法人 沖縄美ら島財団



万国津梁 アジアの架け橋

琉球王国は、今の沖縄県から奄美諸島にかけてかつて存在した国家です。12世紀以降、一体的な文化圏を形成し、15世紀に政治的な統合を遂げて誕生した琉球王国は、日本や朝鮮半島、中国大陸や東南アジアと盛んに交流し、アジア各地を結ぶ中継貿易の拠点として大いに栄えました。王国や港市・那覇の活況を今に伝える記録、交易でもたらされた国際色豊かな品々からは、アジアの架け橋となった琉球王国の繁栄ぶりがうかがえます。



〈巻7〉

重要文化財 おもろさうし 東 九

第二尚氏時代・18世紀 沖縄県立博物館・美術館蔵
※会期中、展示替えがあります。

琉球の島々に伝承された古歌謡「おもろ」の歌謡集。おもろの題材は信仰、祭祀、築城、造船、貿易、航海、租税、島々の支配など多岐にわたります。琉球語の歌謡を日本から伝わった平仮名で表記する点も注目です。



重要文化財 銅鐘 旧首里城正殿鐘 (万国津梁の鐘) 東 九

藤原国善作 第一尚氏時代・天順2年(1458)
沖縄県立博物館・美術館蔵

海洋王国・琉球の繁栄を象徴する梵鐘。琉球王国は、船の交易によってアジア各地を結ぶ「万国津梁」(万国の架け橋)であると自らうたった銘文を刻みます。かつて首里城の正殿に懸けられていたと伝わる鐘です。



王権の誇り 外交と文化

琉球国王尚氏は、1470年からおよそ400年にわたり琉球を治めました。歴代の国王は中国の明、清朝の冊封を受けて王権を強化し、島々の統治と外交、貿易を推進しました。17世紀初め、薩摩島津氏の侵攻により王国は大きな変化を余儀なくされますが、新たな体制と国際関係を築き上げ、やがて安定した統治のもとで琉球の芸術文化が開花します。首里城を彩った王家の宝物、中国皇帝や日本の将軍、大名に贈られた美しい漆器や染織品、そして国際交流により洗練されていった書画は王国の高い美意識と技術を物語るものです。



沖縄県指定文化財 聞得大君御殿雲龍黄金簪 東 九

第二尚氏時代・15~16世紀 沖縄県立博物館・美術館蔵

五穀豊穡や王府の安寧を祈願する祭祀を司った神女組織のなかで、最高位にあった聞得大君が所持したと伝わる金銅製の簪。カブと呼ばれる半球状の頭部には、太陽とみられる大きな渦や龍を精緻に表しています。



あかじりゆうずいんけんざん
国宝 赤地龍瑞雲嶮山
 もんようしゅちんとういしやう
 文様繡珍唐衣裳

(琉球国王尚家関係資料)

東 九

第二尚氏時代・18～19世紀
 沖縄・那覇市歴史博物館蔵
 展示期間: 東 2022年
 5月3日(火・祝)～5月15日(日)

玉冠とともに、国の重要な儀式でのみ用いられる冬季の礼装用の表着です。中国・清朝の皇帝から下賜された官服用の錦を用いていますが、広い袖は明時代の礼装の伝統を守り、垂領の襟は琉球衣裳の仕立てとなっています。

きんそうほうけんこらえごうちよがねまる
国宝 金装宝剣拵(号 千代金丸)

(琉球国王尚家関係資料) 東 九

刀身: 室町時代・16世紀
 拵: 第二尚氏時代・16～17世紀
 沖縄・那覇市歴史博物館蔵
 展示期間: 東 2022年5月31日(火)～6月26日(日)

さや 鞘の全面に薄い金板を巻き、柄頭には竹節状の鑲を取りつけるなど、一般的な日本刀の拵とは大きく異なる琉球独自の点が目をひく宝剣です。もとは今帰仁城を本拠とした山北(北山)王歴代の一振で、のちに尚家に献上されたと伝わります。



しゅうるしざんすいじんぶつちんきんあしつきぼん
浦添市指定文化財 朱漆山水人物沈金足付盆 東 九

第二尚氏時代・16～17世紀 沖縄・浦添市美術館蔵

琉球独特な形状の足付盆。器体の表面に朱漆を塗り、彫刻刀で文様を彫ったところに金箔を摺り込む沈金という技法で装飾が施されています。盆の見込から足の側面にかけて、山間に幽居する人物の姿が繊細に表された名品です。



べにいろうしりゆうほうしゅずいんもんようびんがたあやあわせいしやう
国宝 紅色地龍宝珠瑞雲文様紅型綾袷衣裳

(琉球国王尚家関係資料) 東 九

第二尚氏時代・18～19世紀 沖縄・那覇市歴史博物館蔵
 展示期間: 東 2022年5月31日(火)～6月12日(日)

振袖に仕立てられた王族の少年の衣裳です。宝珠を携えた双龍文様は、王家を象徴する文様でした。型紙を用いて絵文様を色鮮やかに染める琉球独特の紅型は、まぶしい南国の陽ざしに映えたことでしょう。

3

琉球列島の先史文化

南島とも呼ばれる琉球列島では、日本や中国、朝鮮半島、台湾、東南アジアとも関わりの深い「南の文化」が展開しました。サンゴ礁の豊かな海によって独自の「貝の文化」が生まれ、人びとは貝を斧などの実用的な道具に加工したり、首飾りや腕輪などの美しい装身具に仕上げ、身につけたりしました。やがて、海を通して行われた交流や交易から、本州へとつながる「貝の道」が生まれます。貝をはじめとした海産物は、先史時代から欠くことのできない重要な資源だったのです。本章では先史時代の人びとが日々の暮らしに用いた道具とともに、交流によってもたらされた希少な品々を紹介いたします。

重要文化財 かいさじ 貝匙 **東** **九**

貝塚時代後期・6～7世紀
鹿児島県奄美市
小湊フワガネク遺跡出土
鹿児島・奄美市立奄美博物館蔵

貝をはじめとする海由来の素材を用いた道具や装身具は、当地における文化の特色です。本作品はヤコウガイの最も湾曲の大きな部分を打ち割ってつくられたもので、研磨によって変化する真珠層の色彩が美しいです。



ちようがたこつせいひん 蝶形骨製品 **東** **九**

縄文時代晩期・前1000～前400年
沖縄県読谷村吹出原遺跡出土
沖縄・読谷村教育委員会蔵
画像提供:世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム

沖縄の先史文化を代表する装身具がジュゴンの骨でつくられた蝶形骨製品です。ジュゴンが生息するサンゴ礁の海は豊かな海の象徴でもあり、本作品は当時の人びとが海の恵みを活かして暮らしていたことも示しています。



〈部分〉

ノロの図 **東**

第二尚氏時代・19世紀
東京国立博物館蔵
展示期間: **東** 2022年
5月3日(火・祝)～5月29日(日)

ノロは村落祭祀を司る女性。女性が祭祀の中心的役割を担うという点は琉球の宗教の特徴のひとつです。王国の中央集権化とともに、ノロも中央の神女組織に組み入れられました。

4

しまの 人びとと祈り

豊かな自然と東アジア諸外国との深いつながりの中で、琉球の人びとの暮らしは営まれ、独特の歴史文化を築いてきました。なかでも女性が祭祀を司るという特徴は、姉妹が兄弟を霊的に守護する「おなり神信仰」に通ずるともいわれています。人びとの美意識も、こうしたしまの自然と風土に深く関係しています。本章ではしまの暮らしと祈りの形を通して、土地に根ざした多様な文化、地域の個性を見つめます。



〈部分〉

りゆうきゆうこくきかん 琉球国奇観 **九**

江戸時代・19世紀 東京国立博物館蔵 ※会期中、場面替えがあります。

奄美大島の自然や習俗などが詳細に描かれています。九州と沖縄の間に位置する奄美群島は古くから人びとの往来があり、かつては琉球王国の統治下にありました。本作品からは沖縄と共通する風俗や習慣が見取れます。



那覇市指定文化財

じーしーがーみ 厨子甕 **東** **九**

第二尚氏時代・
雍正5年(1727)
沖縄・那覇市立
壺屋焼物博物館蔵

厨子甕とは、洗骨を入れて墓室に納めるという琉球特有の墓葬を象徴する蔵骨器。胴に刻まれた銘文から被葬者と納骨の年がわかる貴重な作品です。

5

未来へ

沖縄は、これまで多くの困難を乗り越え、その歴史と文化を未来につなぐ努力を続けています。平成4年(1992)の首里城再建や、「琉球王国文化遺産集積・再興事業」による王国時代の手わざの復元は、人びとの地道な研究の積み重ねと、モノづくりの真実に迫る熱意によって実現しました。沖縄が昭和47年(1972)に復帰してからの半世紀は、まさに琉球・沖縄のアイデンティティーを取り戻すための歳月だったといえます。本展の締めくくりとして、首里城の復活を中心に、琉球文化の復興と継承の道のりをたどります。

しゅりじょうず 首里城図 (東九)

第二尚氏時代・19世紀
東京・公益財団法人
美術工芸振興佐藤基金蔵
展示期間: (東)2022年
5月3日(火・祝)~5月29日(日)

19世紀前半の首里城を描いた図。正殿と御庭を囲む中心部を象徴的に描いています。王国時代の首里城の姿を伝える貴重な絵図です。



(部分)

もぞうふくげん めーめーうすりー うたまぬち 模造復元 美御前御揃 (御玉貫) (東九)

上原俊展(金細工まつ)、高田明(公益財団法人 美術院)
平成30年度 沖縄県立博物館・美術館蔵
展示期間: (東)2022年5月3日(火・祝)~5月29日(日)

錫製の瓶の上から、色とりどりの飾玉をあしらった酒器です。編み込まれたガラス玉は、隙間がより小さくなるように、あえて不揃いのものを組み合わせていたことがわかりました。



かまくらよしたろう 鎌倉芳太郎の足跡 沖縄文化の保存と復興

COLUMN



鎌倉芳太郎(1898~1983)は沖縄文化の類まれなフィールドワーカーであり、型絵染の人間国宝となった染織家です。鎌倉は東京美術学校卒業後、沖縄で教鞭をとりながら研究し、赴任期間終了後は建築家・伊東忠太の指導と協力を得て本格的に調査収集を行いました。その資料は調査ノート81冊を含む

約7500点におよび、その広がりには美術工芸、建築、文学、民俗、芸能、歴史と徹底したものでした。彼の残した遺産は沖縄文化の継承や沖縄研究の扉を開く基礎資料として今も輝き続けています。

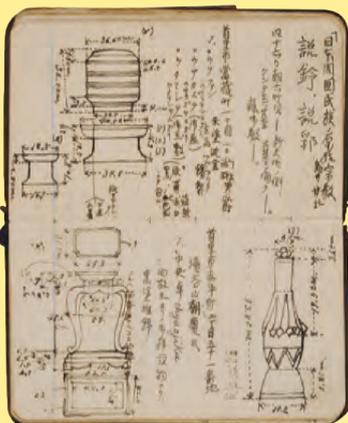
重要文化財

りゅうきゅうげいしゅつちよう さきろく
琉球芸術調査記録

(東九)

鎌倉芳太郎筆
大正~昭和時代・20世紀
沖縄県立芸術大学附属
図書・芸術資料館蔵

※会期中、ページ替えがあります。



手わざ 琉球王国文化遺産 集積・再興事業

COLUMN

「手わざ」とは、手仕事による高度な技術を意味します。沖縄県立博物館・美術館が平成27年度より行ってきた琉球王国文化遺産集積・再興事業では、文化財とその制作技術の復元に努めてきました。完成した作品は、絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線に至る8分野65件、携わった専門家、技術者は県内外の100人以上にもなります。本展では、沖縄の「手わざ」とその技術を未来へとつなぐ多くの人びとの想いを紹介いたします。



もしやふくげん しゅうぼくおう おごえ 模写復元 尚穆王御後絵 (東)

東京藝術大学保存修復
日本画研究室(制作) 令和2年度
一般財団法人 沖縄美ら島財団蔵
展示期間: (東)2022年5月3日(火・祝)
~5月29日(日)



左:模造復元 美御前御揃(御玉貫) 制作風景

右:模造復元 聞得大君御殿雲龍黄金簪 制作風景

沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」

Special Exhibition
Commemorating the 50th Anniversary of
Okinawa's Reversion to Japan
RYUKYU

東京会場

会期:2022年5月3日(火・祝)~6月26日(日)
会場:東京国立博物館 平成館(東京都台東区上野公園13-9)
主催:東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
共催:沖縄県立博物館・美術館 協力:DNP大日本印刷
お問合せ:050-5541-8600(ハローダイヤル)



東京国立博物館創立150年記念

九州会場

会期:2022年7月16日(土)~9月4日(日)
会場:九州国立博物館(福岡県太宰府市石坂4-7-2)
主催:九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、読売新聞社
共催:沖縄県立博物館・美術館、(公財)九州国立博物館振興財団
特別協力:太宰府天満宮 協力:DNP大日本印刷
お問合せ:050-5542-8600(ハローダイヤル)

※㊦東京国立博物館、㊧九州国立博物館の展示作品です。

※東京国立博物館の展示作品のうち、期間表記のないものは通期での展示を予定しています。

※九州国立博物館の展示作品についても、期間が限定されるものが含まれます。詳細は後日展覧会公式サイト等でご確認ください。

※会期中、一部作品の展示替えを行います。

※開館時間、休館日、入館方法等の情報は、確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。

※展示作品、会期、展示期間等については、今後の諸事情により変更する場合があります。最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。

公式サイト

<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/ryukyu2022/>



報道関係お問合せ

〈東京会場〉

特別展「琉球」広報事務局(ユース・プランニング センター内)
〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町9-8 KN渋谷3ビル4F
TEL:03-6821-8445 FAX:03-6821-8869
e-mail:ryukyu2022@ypcpr.com

〈九州会場〉

九州国立博物館
TEL:050-5542-8600(ハローダイヤル)

関連展覧会

令和4年度博物館企画展 復帰50年展「琉球—美とその背景—」
会期:2022年10月14日(金)~12月4日(日)
会場:沖縄県立博物館・美術館